

# 農業技術情報

令和5年8月17日

ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝普及センター十勝東部支所 015-572-3128  
JA幕別町 0155-54-4118  
JAさつない 56-2131  
JA帯広大正 64-4591  
日甜幕別原料事務所 54-2756  
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育・作業の遅速（幕別町8月15日）（ ）内は平年値（※春まき小麦は暫定）

作物名	遅速日数	生育および作業状況	生育期節
秋まき小麦	—	収穫始 7/18 (7/25) 収穫期 7/22 (7/28) 収穫終 7/25 (8/2)	
春まき小麦 (はるきらり)	—	収穫始 7/28 (8/6) 収穫期 8/1 (8/10) 収穫終 8/2 (8/14)	成熟期 7/23 (8/2)
馬鈴しょ	早 3	茎長 66.7 (74.9) cm 茎数 3.4 (3.8) 本/株	茎葉黄変期 8/6 (8/9)
大豆	早 10	茎長 82.5 (78.8) cm 葉数 9.8 (9.9) 枚 着莢数 508.9 (415.3) 個/m <sup>2</sup>	
小豆	早 11	茎長 78.7 (52.9) cm 葉数 12.4 (11.3) 枚 着莢数 312.9 (119.0) 個/m <sup>2</sup>	開花始 7/15 (7/26) 開花期 7/18 (7/29)
菜豆（金時）	早 10	茎長 43.9 (55.8) cm 葉数 4.3 (4.1) 枚 着莢数 139.8 (171.3) 個/m <sup>2</sup>	
てん菜（移植）	早 4	草丈 70.6 (69.7) cm 葉数 29.6 (28.9) 枚 根周 37.4 (35.0) cm	
てん菜（直播）	早 7	草丈 61.4 (58.0) cm 葉数 24.5 (22.6) 枚 根周 30.5 (25.0) cm	
牧草（2番草）	早 4	草丈 89.4 (82.6) cm	
飼料用とうもろこし	早 13	草丈 317.9 (303.2) cm 出葉数 17.4 (17.3) 枚 稈長 282.6 (270.3) cm	絹糸抽出期 7/20 (7/30) 乳熟期 8/11 (8/24)
ながいも（マルチ）	早 6	種子重 56.6 (43.4) g 茎葉重 566.7 (445.8) g 調整長 36.9 (31.9) cm いも重 429.0 (372.6) g いも径 47.5 (46.6) mm	
たまねぎ	早 13	球径 7.62 (7.43) cm 収穫始 8/1 (8/18)	倒伏期 7/26 (8/8)

## 畑 作

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。  
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

### <秋まき小麦>

高収量・高品質の小麦づくりは、適期適正は種からスタートします。根張りが良く強い株を均一に作るために、過湿時には種床準備は避けましょう。また、種子伝染性病害や土壌病害の発生リスクを最小限にするために土の移動に注意し、消毒済の購入種子を使用しましょう。

#### 1 適正は種に向けて

- ・透排水性の劣るほ場では、心土破砕などにより耕盤層を改善しましょう。
- ・は種前に必ず土壌酸度を測定し、pH5.5以上を目標に酸度矯正をしましょう。土壌サンプルの持ち込みと問い合わせは、JA・普及センターにお願いします。

・銅欠乏症状の出やすい土壌（腐植の多い火山性土等）は、銅の補給が必要です（Cu入り肥料等や堆肥の施用）。ただし、その際には過剰障害を防ぐため、土壌診断値に基づき、適正量を施用しましょう。

## <てんさい>

### 1 褐斑病の防除

8月に入り発病が急速に広がっているため、しっかり防除してください（表1）。

### 2 ヨトウガの防除

老齢化すると薬剤の効果が下がるため、ほ場観察し、防除適期を逃さないようにしましょう（表1）。

表1 8月下旬の防除薬剤例（褐斑病・ヨトウガ）

対象 病害虫	農薬名	RAC コード	使用濃度 （倍）	使用時期 （収穫前）	回数 （以内）
褐斑病	カッパーシン 又は カスミンボルドー	24 M1	800	7日	5回
ヨトウガ	ゲットアウト WDG	3A	2,000～3,000	14日	4回

### 3 葉腐病の防除

葉腐病は高温多湿条件で多発します。町内全域で発生が見られていますので、8月下旬の防除時に同時防除を行ってください。

表2 葉腐病の防除薬剤例

農薬名	RAC コード	使用濃度 （倍）	使用時期 （収穫前）	使用回数 （以内）
モンカットフロアブル 40	7	1,000	14日	4回
リンバー顆粒水和剤	7	4,000	7日	3回

## <馬鈴しょ>

高温多湿の影響で茎葉黄変期は平年より3日早く迎えました。

試し掘りでは1株当たりのいも数が平年より多く、1個重がやや軽い傾向ですが、上いも収量は平年を上回っています。今後の肥大状況を確認し茎葉処理を行いましょう。

### 1 塊茎腐敗、軟腐病対策

生育後半の疫病、軟腐病発生は塊茎腐敗の原因となります。収穫までの日数や病害の発生状況に応じて薬剤を選定し防除を継続しましょう。

※薬剤は7/19付技術情報参照（疫病）、8/3付技術情報参照（軟腐病）

### 2 収穫時の注意

- ・収穫作業は茎葉枯凋処理から7～10日後に、いもの皮むけが生じないことを確認して、晴れた暖かい日に行いましょう。また、茎葉枯凋後7～14日以内に収穫しましょう。

- ・ 収穫が早すぎると、収量、でん粉価の減少、皮むけなどの障害が発生する可能性があります。
- ・ 収穫が遅れると、黒あざ病菌核の増加や、腐敗、緑化等品質の低下が懸念されます。
- ・ 掘り取り後は腐敗を防ぐため、風乾を十分に行ってください。
- ・ 選別時や網コン等への投入時には、傷、打撲などできないように注意しましょう。

※茎葉処理方法については 8/3 付農業技術情報参照

## <豆 類>

豆類は全般的に生育が進んでおり、過繁茂で風通しの悪いほ場も散見されますので、このようなほ場では防除の徹底をお願いします。

### 1 マメシンクイガ・カメムシの防除(大豆)

まだ 2 回防除していないほ場は、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※防除方法は 8/3 付技術情報を参照。

### 2 インゲンマメゾウムシの防除(金時、手亡)

まだ 2 回防除していないほ場は、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※防除方法は 8/3 付技術情報を参照。

### 3 マキバカスミカメ・アズキノメイガ・ハダニ・アブラムシ類防除(小豆)

発生が見られた場合、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※薬剤は 7/19 付技術情報参照

### 4 菌核病・灰色かび病防除(小豆)

発生が始まっています。既に 3 回防除していても発生が見られる場合、収穫前日数に留意しながら適期に防除します。※薬剤は 8/3 付技術情報参照

### 5 金時の収穫

ほ場ごとの登熟状況と天候を考慮し、収穫方法に応じた適期収穫と乾燥調製に努めましょう。

収穫が早すぎると、へこみ・つぶれ粒が発生しやすくなり、収穫が遅れると色流れ粒・裂皮・割れ粒が発生しやすくなります。収穫時には収穫機械、脱穀機の調整を確認するようにしましょう。

#### ○ピックアップ収穫

- ・ 収穫・脱穀適期：完熟期(熟莢率 100%、成熟期から3日後～6日以内)
- ・ 作業速度：0.7m/s 以下
- ・ 倒伏程度によらず収穫が可能(ビーンハーベスタまたはビーンカッタ)。

#### ○ダイレクト収穫

- ・ 収穫・脱穀適期：完熟期(熟莢率ほぼ 100%)から6日以内
- ・ 作業速度：0.6～0.8m/s(総重量 700g/m<sup>2</sup> 以上では 0.6m/s 未満)
- ・ 倒伏が見られるほ場では、作業機の速度は 0.5m/s で収穫してください。倒伏が多いほ場では追い刈り収穫を行ってください。

脱穀時は子実水分を考慮し、こぎ胴の回転数を調整します。26%以上の高水分では押傷・つぶれ粒が多発し、18%以下の低水分ではこぎ胴が低回転でも裂皮粒が多発します。また、適水分(19~23%)でも300回転以上では損傷粒が発生します。

《参考》金時の子実水分の簡易判定基準(H13十勝農試技術普及部)

子実水分(%)	指で押した場合	爪で押した場合
30	強く押すと弾力性を感じる	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
22	強く押すとへこむ	爪痕の周囲が広範囲にへこむ
20	へこまない	爪痕が深くへこむ
18	へこまない	爪痕が浅くへこむ
15	へこまない	爪痕がかすかにつく(完熟)

# 野菜

薬剤使用にあたっては、各部会や販売先等の基準に従ってください。  
薬量および倍率は基準内に抑え、薬害やドリフトには十分注意してください。

引き続き軟腐病の発生が懸念されます。銅剤や抗生物質系殺菌剤を使用するなどして発生を抑制してください。

## <たまねぎ>

雨天日が多くなっています。根切り後の防除は、多雨時の薬剤の選択も検討し実施してください。

### (1)根切り作業

根切りの目的は、変形、裂皮、皮ムケ防止や均一な枯葉、着色促進による品質の向上です。適期に根切りを行い、品質低下を防ぎましょう。

#### ○根切り時期の目安

中生・晩生品種	倒伏揃後 10～15日
---------	-------------

○「倒伏揃」…茎葉が80～90%倒伏した時期。

○可能な限り土壌が乾燥した晴天日に行う。

○30℃近くの高温日で日差しの強い日は地上に露出した部分(特に球下半分)に日焼けを生じる恐れがあるため、作業を見合わせる。または、夕方以降に作業する。加えて、枕地を手掘りして寄せる場合は、茎葉で球を覆い長期間放置しない。

○降雨により枯葉が進まない場合は、再度根切りを行う。

### (2)根切り～収穫までの防除

降雨により病害の発生が懸念されます。灰色腐敗病や細菌性病害の被害を防ぐため適期に防除を実施し、被害軽減に努めてください。

表1 根切り～収穫までのたまねぎの防除例

使用時期	薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	軟腐病	灰色(貯蔵)腐敗病
根切り直後	ポリベリン水和剤	M7/19	750～1,000	収穫3日前	5回以内		○
	Zボルドー	M1	500	—	—	○	
根切り後7～10日後	通常時	トップジンM水和剤	1	500～1,000	収穫前日	5回以内	○
	多雨時	ミリオネアフロアブル	7	4,000～8,000	収穫前日	4回以内	○
	薬剤例	カンタス ドライフロアブル	7	1,000～1,500	収穫前日	3回以内	○
	(いずれか1剤)	パレード20フロアブル	7	2,000～4,000	収穫前日	3回以内	○
—	Zボルドー	M1	500	—	—	○	
収穫前日	リベロ水和剤	3	2,000	収穫前日	3回以内		○

### (3)収穫の適期実施

長雨等により収穫が遅れると泥の付着や黒シミの発生等により外観品質が低下します。計画的な根切りを行うとともに、根切り後は茎葉が枯葉したら早めに収穫を行ってください。

- ・肌腐れ等の障害球が混入しないよう収穫前に除去してください。
- ・タッピングは首部が十分乾燥してから行ってください。
- ・収穫後のコンテナは、搬出しやすい排水良好な場所で風乾してください。

#### (4) 苗床における緑肥のすき込み

緑肥をは種した苗床は、出穂始までにすき込んでください。十分に分解させるためには2～3回の土壌混和が必要です。また、土壌混和後は、必ず土壌診断を実施してください。

#### (5) 本畑の緑肥栽培

早生品種のほ場では、収穫後に緑肥を栽培して地力維持と連作時は特に紅色根腐病を含めた病害低減を図りましょう。

後作緑肥にえん麦野生種を栽培する場合、可能な限り早めには種してください。は種が9月になる場合は、は種量を15～20kg/10aと通常よりやや多めにしてください。

### <ながいも>

#### (1) アブラムシの防除

アブラムシの発生が確認されています。必要に応じて防除してください。

表2 アブラムシの防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ダントツ水溶剤	4A	2,000～4,000	収穫7日前	3回以内
コルト顆粒水和剤	9B	4,000	収穫前日	3回以内

#### (2) トレンチャー溝の陥没

降雨によりトレンチャー溝が陥没したほ場は、放置するとその後の降雨で陥没が拡大しやすくなります。形状悪化の原因になるため、通路の土で埋め戻すようにしてください。

### <にんじん>

雨天日が多くなっています。必要に応じて、追肥や病害防除を実施してください。

#### (1) 黒葉枯病・軟腐病の防除

降雨により、病害の発生が懸念されます。ほ場を確認し、防除を実施してください。

表3 黒葉枯病・軟腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数	軟腐病	黒葉枯病
Zボルドー	M1	500	—	—	○	○(500～800倍)
コサイド3000	M1	2,000	—	—		○(500～1,000倍)
カスミンボルドー	24/M1	1,000	収穫 14日前	2回以内		○
銅シン水水和剤						○
スターナ水和剤	31	1,000	収穫7日前	3回以内		

#### (2) アブラムシ類の防除

ほ場の状況を確認して、黒葉枯病や軟腐病と同時防除してください。

表4 アブラムシの防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ゲットアウトWDG	3A	3,000	収穫7日前	2回以内
アトマイヤー顆粒水和剤	4A	10,000	収穫3日前	2回以内
マラソン乳剤	1B	2,000～3,000	収穫14日前	4回以内

#### (3) 追肥

肥料切れは、根部肥大の抑制や黒葉枯病の発生を助長します。必要に応じて追肥を行ってください。

### <レタス>

病害では軟腐病、腐敗病、すそ枯病などに注意するとともに、害虫では引き続きナモグリバエ、アザミウマ、アブラムシなどの防除を適期に行ってください。

※薬剤については、「令和5年度農作物病害虫防除基準」を参照。

## (1) ベと病の防除

秋に向けてベと病が発生しやすくなります。予防防除を実施してください。

表5 レタスベと病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ダコニール 1000	M5	1,000	収穫 14 日前	3回以内
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫 7 日前	4回以内
ランマンフロアブル	21	2,000	収穫 3 日前	3回以内
レーバスフロアブル	40	2,000	収穫 7 日前	3回以内

## <キャベツ・はくさい>

引き続き定期的なコナガ・アオムシ防除を実施してください。コナガは薬剤抵抗性がつきやすいため、同一系統殺虫剤の連用は避けましょう。

※コナガおよび軟腐病の薬剤については、「令和5年度農作物病害虫防除基準」を参照。

### (1)キャベツ・はくさいのべと病防除

べと病は気温が下がる秋に向けて発生しやすくなります。適期に防除を実施してください。

表6 ベと病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	作物名	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
ダコニール1000	M5	キャベツ	1,000	収穫 14 日前	2回以内
		はくさい		収穫 7 日前	
ランマンフロアブル	21	キャベツ・はくさい	2,000	収穫 3 日前	4回以内
レーバスフロアブル	40	キャベツ・はくさい	2,000	収穫 7 日前	3回以内

### (2)キャベツの株腐病防除

結球～収穫期に降雨が続くと発生しやすくなります。

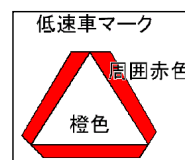
表7 キャベツ株腐病の防除薬剤例

薬剤名	RACコード	使用濃度(倍)	使用時期	使用回数
リゾレックス水和剤	14	500～1,000	収穫7日前	3回以内
アミスター20フロアブル	11	2,000	収穫7日前	4回以内

## 多忙な農繁期における農作業事故防止に努めましょう!

基本事項を守り、機械による事故に注意しましょう。

- 1 トラクタ発進・P T O始動時は、クラクションなどを鳴らし周囲に合図する。
- 2 機械の調整・整備時（つまり物除去等）は必ずエンジンを止める。
- 3 機械の飛び降り・飛び乗りをしない。
- 4 作業機を上げ点検する時やつまり物を除去する時は、作業機の下降を防止するため「固定脚」や「かませ木」を用い下降防止に努めます。
- 5 夕方や夜間に公道を走行する時は、車幅灯を取り付ける、早めの合図、低速車マーク・反射シールをはるなど、トラクタの位置や作業機の大きさを知らせるようにします。



収穫残さのほ場焼却を避け、堆肥化しましょう

## 土壌診断を活用しましょう

土壌診断を実施し、適切な肥料選定をすることで、養分バランスの適正化とコスト節減に活用しましょう。

特にリン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場が多い傾向にありますので、土壌診断に基づき、適切な施肥設計を行いましょう。

※生育期間中でも、畝間から土壌サンプルの採取は可能です。